

I 職員自己評価について

1 回収率

星置校舎	小学部（養教・支援員含）	98%（47/48）	
	中学部（栄教・支援員含）	100%（27/27）	
	訪問教育部	100%（5/5）	
紅葉山校舎	小学部	100%（12/12）	中学部 100%（8/8）
寄宿舎		100%（16/16）	
事務部		50%（2/4）	

2 基本的なおさえ

今年度の職員自己評価については、昨年度に引き続き、設問内容を学校経営方針とリンクさせ、次年度の学校経営計画等に生かすという目的で実施した。

3 評価結果

学校評価（職員用自己評価）集約 参照

4 分析

（1）今年度の重点教育目標・経営目標（短期目標）について

※（ ）は、昨年度評価 評価項目1・3・5は、昨年度項目からの変更や追記あり。

ア 評価ポイントの高い項目

1 個々の児童生徒の実態を的確に把握し、適切な課題設定のもと、「目指す児童生徒の姿」に迫る授業作りと授業改善

評価ポイント 3.1（3.1）

A（達成、以下省略）B（おおむね達成、以下省略）の割合 90%（89%）

4 児童生徒の人権に配慮した呼称、態度、言葉遣いの徹底

評価ポイント 3.3（3.2）

A（達成、以下省略）B（おおむね達成、以下省略）の割合 94%（94%）

イ 評価ポイントの低い項目

3 地域資源の把握と有効活用の在り方の検討、地域貢献を意識した学習活動の充実

評価ポイント 2.4（2.8）

A（達成、以下省略）B（おおむね達成、以下省略）の割合 40%（68%）

5 働き方改革を意識した業務の効率化と教材研究時間の確保、また、そのための協働体制の構築

評価ポイント 2.6（2.6）

A（達成、以下省略）B（おおむね達成、以下省略）の割合 56%（48%）

ウ 分析

・3について、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）拡大予防のため、地域資源を活用したり、地域とかがわたりする学習の実施が難しかったことが関係していると考えられる。また、「目指す児童生徒の姿」の中で、特に小高ブロック、中学部は、仲間や地域の人とのかかわりながら学習する段階としていることから、学習活動全般においてねらいの達成が難しかったことが予想される。関連

して、「6 研究・研修の充実による専門性の向上と研修結果の積極的な情報発信」のC D評価が40%となったことも、コロナ関連で職員自身が校外での研修や集合研修への参加ができなかったことに起因すると考えられる。

- ・5について、評価ポイントは昨年度と同様であるが、A Bの割合が上がっている。昨年度の学校評価を受け、今年度から「校内体制イメージ図」に基づいた組織作りに取り組んでいるが、その中で、個々の意識や行動が、協働体制の構築や業務の効率化につながった部分もあったと考えられる。一方で、全体的な評価の低さからは、協働体制づくりが進んでいないこと、また、両校舎ともに特に中学部ではC D評価が8割を超えていることから、中学部での業務の効率化の難しさがうかがえる。

エ 改善の方策等

- ・withコロナ、afterコロナを見据えて、地域資源の有効活用と地域とのかかわりについて、様々な方法を検討、新たな形を生み出す。ねらいを達成するための学習内容を検討する。
(学習環境に応じた年計の見直し、充実。I C T等の活用検討 等)
- ・zoomを共通ツールとする。(会議、研修の参加から会議、研修の主催まで、情報教育部と連携)
- ・「校内体制イメージ図」をベースに、各校舎に応じた協働体制づくりについて管理職から提案する。
(校内体制イメージ図の確認及び補足。年度内提案。周知から浸透→行動化を目指す。)

(2) 経営ビジョンにおける教育方針・経営方針(中期目標)について

※評価項目9・13・16・17・19は、昨年度項目からの変更や追記あり。

ア 評価ポイントの高い項目

- 20 教育公務員としてあらゆる人権侵害・差別のない社会の実現に寄与するという自覚と責任をもち、服務規律の遵守に努める。

評価ポイント 3.6 (3.5)

A、Bの割合 100% (98%)

イ 評価ポイントの低い項目

- 13 共生社会の礎となる交流及び共同学習や居住地校交流(地域学習)を継続し、地域に貢献し、地域から期待される教育活動の充実に努める。

評価ポイント 2.5 (2.9)

A、Bの割合 46% (85%)

- 15 保護者や地域等と連携した教育活動を推進し、特別支援教育のセンター的機能を発揮して、地域に貢献し、地域とともに歩む学校づくりに努める。

評価ポイント 2.8 (2.9)

A、Bの割合 70% (81%)

ウ 分析

- ・12・13・15を除くと、全ての評価ポイントが3以上となっている。
- ・12・13・15は、いずれも地域とのかかわりに関する項目である。
- ・(1)と関連した項目で、課題を感じている職員が多いと考えられる。

エ 改善の方策等

- ・交流及び共同学習等については、こちらから様々な方法を提案しながら、相手校と新しい交流の形を作っていく。センター的機能についても同様。

・20について、高評価であるが、体罰の根絶にむけた取り組みの継続、指導場面における不適切な発言や態度などの改善、適切な呼称の使用はもとより、集会や職員会議、グループセッションで管理職からの指導、発信を継続する。

(3) 次年度以降の学校経営方針にむけた意見等への回答について

- ア 組織作りに関することについては、(1)エのとおり。話の仕方、話し合いの仕方、共有の仕方、そのどれもが子どもの成長と私たちの学び、業務の改善、効率化につながっています。学校経営、学部学年、分掌等それぞれが組織として行うことと、個々の職員が自ら行動することの両方があって初めて協働することが可能となると考えます。
- イ 知的障がい教育の専門性や教員としての資質の向上は、誰かから与えられるものではなく、自らつかみにいかなければならないものです。zoom等で研修会に参加すること、専門書を読むことなど一定の時間を要することもあります。個別の指導計画を含め様々な文書を作成すること、学習指導要領の必要箇所を読むこと、指導略案検討など日常的な業務も自己研鑽の機会と考えます。公用文を知る、文章の構成を学ぶ、子どもの捉え方を学ぶ、文言修正されたことを新たな知識とするなど、日々の業務にどう取り組み、どう活かせるか、どう学ぶかが問われていると考えます。
- ウ 業務の効率化について、会議や行事の精選は、これまで十分に取組んできたと考えます。今後組織的に取組むこととしては、ペーパーレス化、電子化について検討していきたいと思います(今年度から)。また、個々で引継ぎのための整理をする中で、①必要ない(なくても教育活動に支障がない)②まとめると効率的(みんなで使える)③分けると効率的(必要な人が必要な情報を得る)の観点で、精選し(3学期)、引き継いでください。
- エ 学校評価の自由記述欄について、年度末まで待たなくても改善できそうなことがあるように感じています。学校評価や年度末反省は、1年という大きなスパンで見たときの成果や課題を検討する場とし、年度の途中で出てくる様々な不具合については、経営会議または、学年会やCCM、学部会、分掌部会等から各関係部署、または直接管理職というルートで対応できるのではないのでしょうか。また、年度末反省と重なる部分も散見され、効率的ではないと考えます。年度末反省、学校評価、様々な会議や連携をうまく使い分けることで、改善、向上し続ける学校づくりができるのではないかと考えます。
- オ 校内組織を具体的に示すとともに、校内人事に係る要望、意見等については、令和3年度児童生徒数の見通しに基づいた教職員定数を算出し、チーム力を活かせる編成になるように努めます。
- カ 危機管理については、防災に係る分掌部や委員会、事務部等と検討します。
- キ 様々ないただいたコロナ対応について、コロナ禍において、学校として取組まなければならないものがあり、今年度、事務、教務、舎務、管理職の他、外部委託もしながら分担して取り組んできました。今後も全職員で分担して対応する必要があると考えます。協力をお願いします。

Ⅱ 保護者アンケート（星置校舎、石狩紅葉山校舎小学部、中学部）

1 回収率

星置校舎	小学部	90%（78/87）	中学部	75%（43/57）
	訪育部	50%（7/14）		
紅葉山校舎	小学部	100%（21/21）	中学部	95%（18/19）

2 基本的なおさえ

保護者への学校評価（アンケート）の実施及び結果の公表により、本校教育活動への理解と協力を得て、保護者と学校が連携した学校づくりを進めることを目的とする。また、保護者アンケートの質問内容については、経年での変化等を把握するため、昨年度と同様に設定した。

3 評価結果

学校評価（保護者アンケート）集約 参照

4 分析

（1）学校教育目標について

1 学校教育目標、経営方針、重点目標にそった教育活動を具体的に展開している。

ア 評価ポイント

3.7（R元年度） → 3.7（R2年度）

A（達成、以下省略） B（おおむね達成、以下省略）の割合

100%（R元年度） → 99%（R2年度）

イ 分析

昨年度、未回答が11あったが、今年度は提出者全員が回答している。学校説明会が開催できず、学校教育目標等は文書配付をもって説明に代えたが、学年通信や個別懇談、連絡帳等をおとして、学部、学年で「目指す児童生徒の姿」や学習内容を具体的に伝えることで、ご理解いただけたことも多かったと考える。今後も丁寧な説明、周知方法の工夫に努める。

（2）学習指導・生徒指導・進路指導

ア 評価ポイントの高い項目

4 児童生徒一人一人に応じた「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、活用している。

評価ポイントの変化 3.7（R元年度） → 3.8（R2年度）

A、Bの割合 98%（R元年度） → 99%（R2年度）

イ 分析

どの評価に項目においても高評価をいただいている。

「5 地域資源の積極的活用」では、昨年度比0.3ポイント減少しているが、コロナ関連によるものとする。

「6 進路指導」については、0.1ポイントの減少だが未回答が16と群を抜いて多い。学年によっては、進路に関する懇談会や説明会が実施できなかったり、学校公開や施設見学も中止になったりしたことが、「未回答＝わからなさ」の理由の一つと考えられる。今後も、発達段階にかかわらず、将来を見据えた教育と、学習内容の丁寧な説明が必要である。

(3) 情報提供・連携について

ア 評価ポイントの高い項目

- 8 保護者や地域社会に対して、学年通信、学校だより、ホームページを通して、教育活動などの適切な情報を発信している。

評価ポイントの変化 3.5 (R元年度) → 3.7 (R2年度)

A、Bの割合 97% (R元年度) → 98% (R2年度)

- 9 児童生徒の充実した教育のために、保護者と信頼関係を築きながら連携を図っている。

評価ポイントの変化 3.7 (R元年度) → 3.7 (R2年度)

A、Bの割合 98% (R元年度) → 97% (R2年度)

イ 分析

・どの評価に項目においても高評価をいただいている。ポイント減少項目では、「10地域社会や関係機関と連携した教育活動」があるが、コロナ関連による学習内容の変更が影響していると考えられる。一方で、「8 学年通信、学校だより、ホームページを通じた情報発信」については、コロナによる制限があったからこそ、家庭とつながり続けるために丁寧に情報発信したことが評価されたと考える。

(4) 寄宿舎の運営

- 11 寄宿舎生一人一人の実態に応じた生活指導の充実を図っている。

評価ポイントの変化 3.5 (R元年度) → 4 (R2年度)

A、Bの割合については、寄宿舎を利用している児童生徒が少なく、全体比としての根拠に欠けるため計上しない。

(5) 自由記述に対する回答

ア 学校生活、学習内容に関すること

→・新転入生など、コロナ禍前の学校で学ぶ子どもの様子を見ていない保護者の皆様にとっては、お子さんの学校生活を想像することが難しく、不安も大きかったことが予想されます。また、状況によっては、写真や動画で理解、共有し、記録する方が、文書を見たり、担任等から話を聞いたりするよりも早く、確実で、安心という場合があることも分かります。そのため、個別の指導計画等にかかわる懇談で授業の様子を動画でお知らせしたり、不安が大きい場合には、休校中や長期休業期間を含め、来校していただき個別懇談の場を設定したりすることも必要だと考えています。

・教師がパソコンやタブレット端末などを使う授業はこれまでも日常的に行われていますが、今年度中に、児童生徒の人数分のiPadが導入され、次年度からは子ども自身がiPadを使って学習することについても検討していくことになります。iPadを使うことが目的ではなく、身に付けさせたい力や学習のねらい、お子さんの特徴、場面や状況に応じて最適な教材を選択し、学習活動に活かしていきたいと思います。(iPadなどのデジタルか、カードなどのアナログかを十分に吟味し、指導にあたります。)

イ いじめに関する調査に関すること

→全道一斉の調査となっており、学校判断で調査項目の変更や調査の中止ができません。また、小中の特別支援学校でもいじめは実際に起こりえることであり、年齢や発達段階、障がい種で実施の可否を判断することにもなりません。「お子さんの様子からは判断できない」、「この調査に回答する意義を見いだせない」などの場合は、お手数ではありますが、調査用紙の余白に「わからない」と書いて提出していただくようお願いいたします。

ウ 星置校舎の駐車場に関すること

→スクールバスの増便に伴い、保護者には様々なご協力をいただき感謝しております。今後も児童生徒の安全を最優先に駐車場の設置や誘導をおこなっていきますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。なお、対応が難しい部分については、担任や学年主任、または管理職にご相談いただき、可能な限り改善を図っていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

エ 学校公開に関すること

→感染症対策や不審者への対応、個人情報漏洩防止の観点から、春休み期間中の学校公開は行わないこととします。教室や学級の友達、担任等が変わり、それを始業式に初めて知ることになることを不安に思うお子さんや保護者の方がいらっしゃることを承知しておりますが、今年度同様、お子さんが玄関に入ってから動線、教室環境、視覚的に分かりやすい表示、お子さんの特徴に応じた対応等、十分な準備に努め、始業式には、新しい環境を体験的に学ぶと同時に、進級したことを肌身で感じ、自分の成長と新しい学年の始まりを喜ぶことができるように学習を進めたいと考えています。また、状況が許せば、保護者の方に始業式に来校していただき、新担任並び所属職員、学級の保護者の方と顔合わせをする場を設けたいと考えています。